

プロレスラーの死因に関する一考察

瀧澤 透¹・成澤 良²

要 旨

本研究は、プロレスラーの死因について検討することを目的としている。対象は世界各国の男性プロレスラーとし、調査データはインターネット上のプロレスラーウェブサイトの情報を参考にした。その結果、死亡レスラー 189 人において、最も多い死因は心臓発作など心疾患（43 人）で、次に悪性新生物（35 人）、不慮の事故（19 人）、糖尿病（7 人）と続いた。なお、試合による事故死は 2 人であった。さらに、一般人口との比較については、2000 年以降に死亡したアメリカ国籍のレスラー 60 人と 2007 年アメリカの人口動態統計（男性、全人種）との比較をしたところ、レスラーは顕著に心疾患が多かった。この心疾患については死亡時平均年齢でも一般人口と大きな差があり、レスラーを早世させる要因の一つと考えられた。

Key words：死因，ICD-10，人口動態統計，死亡時平均年齢

I. はじめに

1. プロレスラーとは

プロフェッショナル・レスリング（以降、プロレスとする）とは、打撃、投げ、関節技といったあらゆる格闘要素を「見せ物」とし観客を集め興行する格闘ショーを言い、また、実際に闘う職業人をプロレスラー（以降、レスラーとする）という。試合は 1 対 1、2 対 2、もしくは 4 対 4 など多様な形態で行われ、また、勝敗はストーリー（ブック）によることが多い。観客は、レスラーの勝敗よりも試合内容、特に観客を楽しませる技や攻防に興味を持っており、従って「八百長」という概念はプロレスファンに存在しない。一方でレスラーは、試合において激しい攻防が展開するため強靱な肉体が要求される。日々の訓練や特に「受け身」の練習は、職業の継続に必須であり、また、華のある技の開

発・修得や試合の盛り上げ方の工夫は、興業の成功につながる。加えて、コスチューム、小道具、入場方法、マイクパフォーマンスなどは試合と同じぐらいにファンを楽しませるものであり、レスラー自身もキャラクターを大切にしている。

現在、プロレスが行われている国は、日本のほか、アメリカやカナダの北米、メキシコやプエルトリコなど中米、さらに、ヨーロッパではイギリス、ドイツ、フィンランドなどがある。

2. 研究の目的

レスラーの死亡について知る機会は、例えばジャイアント馬場のように国民的に良く知られたレスラーの逝去、もしくは、リング上での事故死、レスラーの自殺や他殺といった、センセーショナルな事件の場合が多い。特に、後者のような事故や自殺といった異状死については、プロレスファンはもとより、一般の方々にまで強い印象を残している。

これらレスラーの死亡については、通常の死

¹ 八戸大学人間健康学部 教授

² 陸上自衛隊

因と大きく異なっているのかどうかは研究された例がない。レスラーの死因について詳細に分析することは、レスラーの安全や健康管理に必要な資料となることはもちろん、イメージが先行しがちなプロレスという格闘技について正しく理解することにもつながると思われる。本研究は、レスラーの死因について、その実態を明らかにすることを目的としている。

II. 対象と方法

1. 調査対象

調査対象は2011年以前に死亡した男性レスラーであり、MMA（Mixed Martial Arts：総合格闘技）および打撃系格闘技は対象としていない。また、国籍および生年や死亡年の明らかなレスラーのみを対象とし、これらデータが不十分な場合は有効としなかった。

2. 調査方法

1) 方法

死因やその他の情報の収集については、表1に示すプロレスラー情報を集めたインターネッ

トウェブサイト参照した。それにより189人の死亡しているレスラーを確認し、これを分析対象とした。なお、本文中を含めレスラーの表記は敬称略とした。

2) 死因について

死因については、必要に応じて複数のホームページを比較して確認をした。次にこれら死因は、日本の人口動態統計「死因簡単分類」にまとめた。用いた死因分類は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎、老衰、不慮の事故、自殺、腎不全、感染症、糖尿病、神経系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、その他の循環器系の疾患、他殺、他に分類できないもの、不明であった。なお、レスラーの死因の分類においては、場合によってICD-10コードを確認したが、その際は標準病名マスター検索ソフトウェア病名くん2.0を用いた。

3) 分析

レスラーと一般人口との死因分類の比較は、データの多い2000年以降に死亡したアメリカ国籍のレスラーの死因と、2007年アメリカ全体の死因統計とを比較した。用いた統計はCDC（Centers for Disease Control and Preven-

表1. 参考にしたホームページ

ホームページ名	URL	言語	主な内容
レスラーノート	http://kuro.pinoko.jp/pro/r5.htm	日本語	プロレスラーのプロフィールサイト。
Online World of Wrestling	http://www.onlineworldofwrestling.com/	英語	アメリカを中心に世界各国のレスラー情報を掲載。Obituariesにレスラーやレスリング関係者の死亡一覧がある。
luchawiki!	http://luchawiki.com/index.php?title=Main_Page	英語	主にメキシコレスラーを扱うが、世界各国のレスラーの情報が集まるウェブサイト。
SLAM ! sports	http://slam.canoe.ca/	英語	北米のあらゆるスポーツに関するウェブサイト。レスラー情報も詳しい。
訃報ドットコム	http://fu-hou.com/	日本語	プロレスラーだけでなく、あらゆる著名人の訃報を扱う。
ウィキペディア	http://en.wikipedia.org/wiki/ http://ja.wikipedia.org/wiki/	英語 日本語	死因や死亡年齢などを参考にした。

tion) が公表している NVSS (National Vital Statistics System) にある主要な死因統計 (Leading Causes of Death) であり, 2007 年男性の全人種のデータを利用した。

その際, アメリカ全体の疾患別の死亡時平均年齢の算出方法は,

$$\text{死亡時平均年齢} = \frac{(\text{5 歳階級年齢中央値} \times \text{5 歳階級別死亡数}) \text{ の } 0\text{--}100 \text{ 歳までの } 21 \text{ 階級の総和}}{0\text{--}100 \text{ 歳までの } 21 \text{ 階級の死亡数の総和}}$$

III. 結 果

分析対象となった 189 人のレスラーの一覧は表 2 の通りとなった (末尾に掲載)。まず, これら 189 人の属性について概観し, 次に死因分類について検討をした。

1. 国籍および死亡時の年齢

1) 国籍

既に死亡しているレスラー 189 人の主な国籍は, 米国 99 人, 日本 29 人, カナダ 24 人, メキシコ 13 人, イギリス 6 人, イタリア 4 人, 韓国・北朝鮮 3 人, 豪州 2 人, アルゼンチン, アンティグア・バーブーダ, オランダ, ギリシャ, プエルトリコ, フランス, ベルギー, ポーランド, マルタ各 1 人であった。

2) 年齢

年齢死亡時点の平均年齢は 56.3 歳で, 最も若年は 25 歳, また, 最も高年齢は 88 歳であった。死亡時の年齢分布は図 1 に示した。最頻値は 68 歳の 9 人で, 次いで 51 歳の 7 人が多かった。10 歳階級別では, 20 歳代が 6 人, 30 歳代が 28 人, 40 歳代が 35 人, 50 歳代が 39 人, 60 歳代が 40 人, 70 歳代が 29 人, 80 歳代が 15 人であり, 20~50 歳代で全体の 57.1% を占めた。

3) 死亡年

分析対象の 189 人のプロレスラーの死亡年を見ると, 2010 年には 26 人の死亡があり最も多

によって算出した。なお 100 歳以上の年齢階級の中央値は 102 歳としている。

かった。次いで 2003 年の 12 人, 2000 年, 2007 年, 2009 年の各年で 11 人の順に多かった。また, これを年代でみると 60 年代 1 人, 70 年代 5 人, 80 年代 17 人, 90 年代 43 人, 2000~2009 年 94 人, 2010~2011 年 29 人となり, 全体の 65.1% は 2000 年以降の死亡となった。

2. 死因

1) 死因分類

分析対象の 189 人の死亡しているレスラーの主な死因分類および死亡時の年齢については表 3 にまとめた。最も多い死因分類は心疾患で 71 人であった。次いで, 悪性新生物 34 人, 不慮の事故 19 人などが多かった。このほかでは, 糖尿病 7 人, 自殺 6 人, 脳血管疾患 5 人, 腎不全 5 人, 老衰 3 人, 感染症 3 人, その他の循環器系の疾患 3 人, 他殺 3 人, 肺炎 2 人, 神経系の疾患 2 人, 呼吸器系の疾患 2 人, 消化器系の疾患 2 人, 分類できないもの 4 人, 不明 17 人であった。

また, 死因分類別の死亡時の年齢では, 老衰が 78.0 歳と最も高く, 次いで, 神経系の疾患, 呼吸器系の疾患, 肺炎の順であった。一方で, 最も低いものは自殺 40.2 歳であった。

2) 国籍別にみた死因分類

主な国籍別の死因分類は表 4 の通りとなった。アメリカ国籍のレスラーは心疾患が 43 人 (43.4%) と最も多く, 次いで, 悪性新生物 12

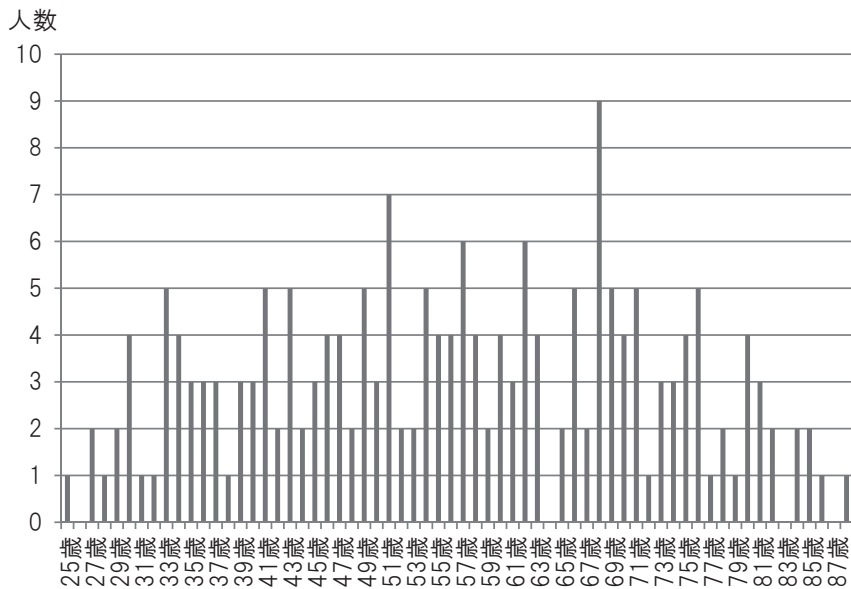


図1. 死亡時の年齢

表3. 死因分類および死因分類別にみた死亡時の年齢

死因分類	人数	平均年齢	標準偏差	最小値	最大値
がん	34	60.8	14.0	30	84
心疾患	71	57.3	15.2	29	86
脳血管疾患	5	56.0	21.6	27	76
肺炎	2	67.5	0.7	67	68
老衰	3	78.0	9.2	70	88
不慮の事故	19	44.5	13.3	28	71
自殺	6	40.2	8.5	30	55
腎不全	5	57.8	15.5	36	78
感染症	3	59.3	10.1	53	71
糖尿病	7	56.7	13.0	40	75
神経系の疾患	2	73.0	7.1	68	78
呼吸器系の疾患	2	72.0	5.7	68	76
消化器系の疾患	2	51.0	8.5	45	57
その他の循環器系の疾患	3	45.7	3.5	42	49
他殺	3	51.0	27.0	33	82
他に分類できないもの	4	43.3	17.0	25	66
不明	18	58.4	17.0	27	82
合計	189	56.3	15.8	25	88

人（12.1%）であった。一方で、日本国籍では、がん7人（24.1%）が最も多く、心疾患は4人（13.8%）であった。さらにカナダ国籍ではが

ん9人（40%）、また、メキシコ国籍では心疾患9人（69.2%）となっており、死因順位および割合が国籍別で大きく異なっていた。

表 4. 主な国籍別にみた死因分類および死亡時の平均年齢

死因分類	米国	日本	カナダ	メキシコ	英国	イタリア	豪州	その他	合計
がん	12	7	9	1	1	2	1	1	35
心疾患	43	4	6	9	2	2	1	4	71
脳血管疾患	1	2	0	0	1	0	0	0	5
肺炎	0	2	0	0	0	0	0	0	2
老衰	3	0	0	0	0	0	0	0	3
不慮の事故	11	3	4	1	0	0	0	0	19
自殺	5	0	1	0	0	0	0	0	6
腎不全	1	3	1	0	0	0	0	0	5
感染症	1	1	1	0	0	0	0	0	3
糖尿病	4	2	0	0	0	0	0	1	7
神経系の疾患	1	1	0	0	0	0	0	0	2
呼吸器系の疾患	1	1	0	0	0	0	0	0	2
消化器系の疾患	2	0	0	0	0	0	0	0	2
その他の循環器系の疾患	1	0	0	1	1	0	0	0	3
他殺	2	0	0	0	0	0	0	1	3
他に分類できないもの	1	2	0	0	0	0	0	1	4
不明	10	1	2	1	1	0	0	3	17
合計	99	29	24	13	6	4	2	12	189
死亡時の平均年齢 (最小-最大)	54.1 (25-88)	54.2 (27-81)	61.8 (33-84)	58.2 (39-74)	58.5 (39-76)	62.8 ^a (39-84)		56.3 (25-88)	

^a イタリアおよび豪州の死亡時の平均年齢はその他と合わせて算出した。

次に、国籍別の死亡時の平均年齢の比較では、アメリカ国籍のレスラーが平均 54.1 歳と最も低く、次いで日本国籍、メキシコ国籍の順に低かった。しかし、国籍間で統計的に有意な差はなかった。

3) 一般人口との比較

一般的な人々の死因とレスラーの死因の比較検討については、死亡例の多いアメリカ国籍のレスラーの、かつ 2000 年以降に死亡した 60 人について、アメリカ人口動態統計（2007 年、男性）のデータと比較した（表 5）。

その結果、レスラーは一般人口に比べ、心疾患による死亡が 2 倍程度高く、また、自殺も多い傾向が見られた。一方で、不慮の事故は差異がなく、また、がんが 1/4 程度少なかった。

また、主な疾患別の死亡時平均年齢を比較すると、心疾患で 16.6 歳、自殺で 9.9 歳、がん 8.7 歳など、多くの死因でレスラーのほうが平

均年齢が低かった。一方で不慮の事故については年齢に差がみられなかった。

3. 異状死について

1) 異状死

本調査でみられた不慮の事故は 19 人であった。その内訳は、交通事故 7 人、リング上での事故 2 人、ステロイドや薬物（コカインなど）などの過剰摂取 7 人、その他 3 人（飛行機事故、誤嚥による窒息、転倒）であった。

また、自殺は 6 人であったが、その詳細についてみると、まず国籍は 米国人 5 人、カナダ人 1 人、また、自殺手段は首つり 2 人、ピストル 1 人などであった。

最後に他殺は 3 人であり、国籍は 米国人 1 人、カナダ人 1 人、英国人 1 人、また殺人手段は刺殺 2 人、射殺 1 人であった。

表5. レスラーと一般人口との比較（アメリカ国籍レスラーと2007年アメリカ男性）

アメリカ国籍のレスラー ^a				アメリカ全国民（男性、全人種2007年） ^b				
死因分類	人	%	歳	死因分類	人	%	歳 ^c	差
心疾患	29	48.3	56.9	Diseases of heart	309,821	25.7	73.4	16.5
がん	4	6.7	61.8	Malignant neoplasms	292,857	24.3	70.4	8.7
不慮の事故	4	6.7	47.8	Accidents (unintentional injuries)	79,827	6.6	47.3	-0.5
自殺	4	6.7	36.5	Intentional self-harm (suicide)	27,264	2.3	46.4	9.9
糖尿病	3	5.0	64.7	Diabetes mellitus	35,478	2.9	70.0	5.3
呼吸器系の疾患	1	1.7	68.0	Chronic lower respiratory diseases	61,235	5.1	75.6	7.6
その他 ^f	15	25.0	60.5	その他	397,481	33.0	- ^d	- ^d
合計	60	100.0	56.8		1,203,963	100.0	68.6 ^e	11.9

※表中の「歳」は疾患別の死亡時平均年齢。「差」はレスラーとアメリカ全国民の死亡時平均年齢の差。

^a 2000年以降に死亡したもの。

^b Leading Causes of Death 2007 (CDC)。

^c 死亡時平均年齢は5歳階級別の死亡数より概算したもの。

^d 算出せず。

^e 全死因で死亡時平均年齢を算出した。なお、この年の平均寿命 (Life expectancy at birth) は75.3歳。

^f その他の内訳は、老衰2, アルツハイマー病, 感染症, 血栓, 動脈硬化, 不明9。

IV. 考 察

1. 早死するプロレスラー

1) 一般人口との比較

これまでに死亡した世界のプロレスラー189人について検討した結果、死亡時平均年齢は56.3歳と若く、レスラーは早死にする傾向が明らかにされた。単純な比較はできないが、この年齢は、例えば大阪のホームレスの死亡時平均年齢56.2歳に匹敵する（逢坂ほか，2003）。

この要因は、表3にあるように自殺（40.2歳）や不慮の事故（44.5歳）などのほか、心疾患（57.3歳）などが年齢を押し下げていると思われる。

さて、こういった死因に関する詳細な検討を行う場合は、表4より明らかなようにレスラーの国籍別の違いを考慮しなければならない。また死因順位は医療の進歩とともに大きく変動していることなどを踏まえると、時代的な要因も考慮すべきである（Jemal A, et al. 2005）。従って、本稿では、比較的に事例数の多い2000年以降のアメリカ国籍レスラーを中心に疾患別に検討を行った。

その結果、一般的なアメリカ国民（男性）と

比較して、アメリカ国籍のレスラーは心疾患が最も重大な死因であることが明らかになった。レスラーの死亡の半数近くを占め、かつ平均して50歳代半ばで死亡することから、この心疾患がアメリカでの「レスラー早死」の最大の原因の一つと考えてよい。

ちなみに、同様の方法で日本国籍のレスラーについて検討を行ったが（2000年以降は21人）、心疾患（死亡数4例）はレスラーの死亡時平均年齢55.3歳に対し、日本全体で75.7歳、また、がん（死亡数4例）は57.3歳に対し73.1歳であった（日本全体は2008年人口動態統計による。同様の方法により死亡時平均年齢を算出）。日本国籍のレスラーの死亡事例数が多くなく、平均死亡年齢の比較には無理があるが、しかし、アメリカ同様、日本でも心疾患で20.4歳も差があったことは注目したい。

レスラーが心疾患で死亡する要因の検討は今後の課題となったが、食生活のほか後述する薬物の問題も関連しているのではと推察できる。

このほか、一般人口との比較で注目すべきは、不慮の事故である。少なくとも2000年代以降のアメリカ国籍レスラーでは、全死亡に占める

割合や死亡時平均年齢で一般人口と変わらなかった。これは引退後の生活も含めたものであるが、レスラーや元レスラーが一般人と比べて「危険な生活」を送っているわけではないことが示唆された。

2) 試合中の事故死および試合による死亡

プロレスラーの試合中における死亡は、本研究では三沢光晴とオーエン・ハートの2例を試合中における事故死（不慮の事故）としている。このほか次の2例を加えて、合わせて4例を「試合による死亡」ととらえることもできる。まず、福田雅一については死因が脳血管疾患であるが、直接的に試合が影響をしている。また、ゲリー・オブライイトは試合中の心臓発作であった。

これはプロボクシングや自転車、スキーなどの競技に比べても決して多くはなく、従ってプロレスを必要以上に危険視するものではないと言えるだろう。しかし、実際に死亡事例がある以上、安全配慮には細心の注意を払うべきである。オーエン・ハートについては過剰な演出、また、福田雅一については後遺症などの健康管理に配慮すれば防げたかもしれない。ファンが喜ぶような華やかな興業を続けるためにも、今後、これら事例から多くを学び再発防止を徹底すべきである。

さて一方で、無理をして試合に出続けることで心身のダメージを蓄積し、やがて死に至る

ケースも少ないとは言えず、試合による死亡という概念を拡大解釈すれば、試合が遠因となって死亡するレスラーの数はかなり多くなるのではないと思われる。

2. レスラーと薬物

ステロイドに関する問題はレスラーの健康を論議する上で外すことができない。レスラーの場合、筋肉を肥大化させることを目的とし使用されることがほとんどで、主に成長ホルモンを注射することが多い。ダイナマイト・キッドやエディ・ゲレロのように、ジュニアヘビーの体格であったレスラーがヘビー級で闘うために使用し、その結果、心身に大きなダメージをもたらしたことはよく知られている。また、レスラーは首や腰、膝などに慢性的な持病を抱えるものが多い。そのため彼らは長年にわたりペインキラー（痛み止め）を服用している場合がある。

麻薬を含めた、こうした薬物使用の問題は、確実にレスラーの命を縮めている。本調査におけるレスラーの薬物の過剰摂取は、死因分類として不慮の事故のほか心疾患や自殺にも見出された。それら全てをまとめたものが表6である。過剰摂取された薬物は、コカインやヘロインといった麻薬だけでなく、抗精神病薬（2例）、鎮痛剤（2例）、ステロイド剤といったものもあった。

表6. 薬物の過剰摂取

氏 名	国籍	没年	年齢	死因	死因分類
ジノ・ヘルナンデス	アメリカ	1986	28	コカインの過剰摂取	不慮の事故
バズ・ソイヤー	アメリカ	1992	32	ヘロインの過剰摂取	不慮の事故
エディ・ギルバート	アメリカ	1995	33	心臓麻痺（薬物過剰摂取）	不慮の事故
ボビー・ダンカン・Jr	アメリカ	2000	35	心臓発作（ドラッグ中毒）	心疾患
デイビーボーイ・スミス	イギリス	2002	39	心臓発作（ステロイド剤とドラッグ中毒）	心疾患
カート・ヘニング	アメリカ	2003	44	鎮痛剤の過剰摂取	不慮の事故
ビガロ	アメリカ	2007	45	薬物の過剰摂取（抗不安薬とコカイン）	不慮の事故
ブライアン・アダムス	アメリカ	2007	44	薬物の過剰摂取	不慮の事故
テスト	カナダ	2009	33	薬物の過剰摂取（処方鎮痛剤）	不慮の事故
クリス キヤニオン	アメリカ	2010	40	自殺（抗うつ剤の過量服薬）	自殺

※表2の再掲

このような状況の中、WWE (World Wrestling Entertainment) では1987年よりコカイン、ヘロインなどの麻薬に関する検査を所属選手に行っている。2000年代に入り薬物が原因とみられる死亡事故が相次いだため2006年より所属選手に対し定期的にドーピング検査を実施している。

3. 本研究の限界

ゼミ生の卒業研究を大幅に加筆した本研究は、インターネット上のプロレスウェブサイトにある情報を用いた研究である。従って、年齢や国籍、死因などの情報について、どこまで信頼性があるのか定かではない。また、これまでに死亡した全レスラーを把握しているとは言えない。

次に、レスラーと一般人口との死因の比較を行っているが、2000年代以降のレスラーの死亡については約12年間の平均であり、これを単年度の人口動態統計と比較しても厳密な検討とは言えない。

4. おわりに ～哀しきレスラー～

プロレスとは、タフな肉体によるファイトであり、また 入念な脚本（ギミック）による美しくて激しい、世界中で最も人気のある娯楽スポーツ産業である。また、試合ではレスラーは

「魅せる」ことに意識を集めるが、その理由は、レスラーにとっての最高の荣誉が、ファンを魅了し熱狂させることにあるからだ。

しかし、華やかなリングの外には脚本は存在せず、ファンはレスラーの私生活や引退後の状況に時折、涙を流す。クリス・ベノアの例は言うまでもないが、レスラーにとってリングの上で血を流し闘うことよりも、リングを降りた現実の世界の方が辛いものなのかもしれない。そして哀しき舞台裏を知るほど、プロレスファンは熱狂をするのかもしれない。

参考文献

- CDC. LCWK1. Deaths, percent of total deaths, and death rates for the 15 leading causes of death in 5-year age groups, by race and sex: United States, 2007 (<http://www.cdc.gov/nchs/nvss/mortality/lcwk1.htm>: 平成24年9月28日閲覧)
- Jemal A, Ward E, Hao Y, Thun M. Trends in the Leading Causes of Death in the United States, 1970-2002. JAMA, 294(10), 1255-1259, 2005.
- Jiaquan Xu, Kenneth D. Kochanek, Betzaida TV. Deaths: Preliminary Data for 2007. National Vital Statistics Reports, 58(1), 2009.
- 逢坂隆子, 坂井芳夫, 黒田研二, 的場梁次. 大阪市におけるホームレス者の死亡調査. 日本公衆衛生雑誌, 50(8), 686-696, 2003.

表 2. 死亡レスラー一覧

No	氏名	国籍	生年	没年	享年	死因	死因分類
1	力道山	朝鮮・韓国	1924	1963	39	化膿性腹膜炎	その他
2	ドリー・ファンク・シニア	アメリカ	1919	1973	54	心臓発作	心疾患
3	マシオ駒	日本	1940	1976	36	腎不全	腎不全
4	アントニオ・ロッカ	イタリア	1927	1977	49	肝臓がん	悪性新生物
5	ロニー・メイン	アメリカ	1944	1978	33	自動車事故	不慮の事故
6	クリス・テイラー	アメリカ	1950	1979	29	狭心症	心疾患
7	スネーク奄美	日本	1951	1981	30	脳腫瘍	悪性新生物
8	バディ・キラー・オースチン	アメリカ	1930	1981	51	心臓発作	心疾患
9	アルゼンチン・アポロ	アメリカ	1941	1984	43	心臓発作	心疾患
10	デビッド・フォン・エリック	アメリカ	1958	1984	25	内臓疾患	その他
11	バク・ソン・ナム	朝鮮・韓国	1943	1984	41	糖尿病	糖尿病
12	エディ・グラハム	アメリカ	1930	1985	55	自殺（ピストル）	自殺
13	ジェイ・ヤングブラッド	アメリカ	1955	1985	30	心臓発作	心疾患
14	ターザン・タイラー	カナダ	1927	1985	58	交通事故	不慮の事故
15	アンヘル・ブランコ	メキシコ	1936	1986	50	交通事故	不慮の事故
16	エル・ソリタリオ	メキシコ	1946	1986	39	心臓麻痺	心疾患
17	ジノ・ヘルナンデス	アメリカ	1957	1986	28	コカインの過剰摂取	不慮の事故
18	スコット・アーウィン	アメリカ	1952	1987	35	脳腫瘍	悪性新生物
19	ハル蘭田	日本	1956	1987	31	航空機墜落事故	不慮の事故
20	アドリアン・アドニス	アメリカ	1953	1988	34	自動車事故	不慮の事故
21	ブルーザー・プロディ	アメリカ	1946	1988	42	殺人死	他殺
22	レロイ・ブラウン	アメリカ	1950	1988	37	心臓発作	心疾患
23	ヘイスタック・カルホーン	アメリカ	1934	1989	55	糖尿病	糖尿病
24	ゴリー・ゲレロ	メキシコ	1921	1990	69	心臓発作	心疾患
25	ウィルバー・スナイダー	アメリカ	1929	1991	62	不明	不明
26	ディック・ザ・ブルーザー	アメリカ	1929	1991	62	心臓発作	心疾患
27	リッパー・コリンズ	アメリカ	1926	1991	65	大腸がん	悪性新生物
28	ロッキー羽田	日本	1948	1991	43	内臓疾患	その他
29	大熊元司	日本	1941	1992	51	急性腎不全	腎不全
30	バズ・ソイヤー	アメリカ	1959	1992	32	ヘロインの過剰摂取	不慮の事故
31	バディ・ロジャース	アメリカ	1921	1992	71	転倒し頭を強打	不慮の事故
32	アンドレ・ザ・ジャイアント	フランス	1946	1993	46	心不全	心疾患
33	ドン・ケント	アメリカ	1937	1993	56	白血病	悪性新生物
34	ルーファス・ジョーンズ	アメリカ	1933	1993	60	心筋梗塞	心疾患
35	アニバル	メキシコ	1940	1994	54	脳腫瘍	悪性新生物
36	ボリス・マレンコ	アメリカ	1933	1994	61	白血病	悪性新生物
37	レイ・キャンディ	アメリカ	1951	1994	42	心臓発作	心疾患
38	ロニー・エチソン	アメリカ	1924	1994	70	老衰	老衰
39	エディ・ギルバート	アメリカ	1961	1995	33	心臓麻痺（薬物過剰摂取）	不慮の事故
40	キラー・カール・クラブ	カナダ	1934	1995	61	心臓麻痺	心疾患
41	ジ・アラスカン	アメリカ	1938	1995	57	肝不全	消化器疾患
42	ジェリー・ブラックウェル	アメリカ	1949	1995	45	肝炎	消化器疾患
43	ビッグ・ジョン・スタッド	アメリカ	1948	1995	47	ホジキンリンパ腫	悪性新生物
44	ミスター珍	日本	1932	1995	62	慢性腎不全	腎不全
45	ディック・マードック	アメリカ	1946	1996	49	心臓麻痺	心疾患
46	レイ・ステイブンス	アメリカ	1935	1996	60	心臓発作	心疾患
47	スタン・ステイジャック	カナダ	1937	1997	60	心不全	心疾患
48	スパイロス・アリオン	ギリシャ	1940	1997	57	不明	不明
49	ビル・ミラー	アメリカ	1927	1997	69	心臓発作	心疾患
50	フリッツ・フォン・エリック	アメリカ	1929	1997	68	がん	悪性新生物
51	ボブ・ブラウン	カナダ	1938	1997	58	心臓発作	心疾患
52	ラリー・オーディ	オーストラリア	1942	1997	55	肝臓がん	悪性新生物
53	リップ・タイラー	アメリカ	1940	1997	57	肝臓がん	悪性新生物
54	ジャイアント・ヘイスタック	イギリス	1947	1998	51	がん	悪性新生物
55	ジャンクヤード・ドッグ	アメリカ	1953	1998	45	交通事故	不慮の事故
56	タンク・パットン	アメリカ	1946	1998	52	がん	悪性新生物
57	ボボブラジル	アメリカ	1924	1998	74	脳卒中	脳血管疾患
58	ウォルター・ジョンソン	アメリカ	1942	1999	57	心臓発作	心疾患

No	氏名	国籍	生年	没年	享年	死因	死因分類
59	オーエン・ハート	カナダ	1965	1999	34	転落による事故死	不慮の事故
60	クルト・フォン・ヘス	カナダ	1942	1999	56	心臓発作	心疾患
61	ゴリラ・モンズーン	アメリカ	1937	1999	62	腎不全	腎不全
62	ジャイアント馬場	日本	1938	1999	61	大腸がんが肝臓に転移	悪性新生物
63	ジョー・ルダック	カナダ	1944	1999	54	肺感染症	感染症
64	ヒロ・マツダ	日本	1937	1999	62	肝臓がん	悪性新生物
65	リック・ルード	アメリカ	1958	1999	40	心臓麻痺	心疾患
66	ロード・ジョナサン・ボイド	オーストラリア	1944	1999	55	心臓麻痺	心疾患
67	アル・コステロ	イタリア	1920	2000	80	肺がん	悪性新生物
68	アントニオ・ブグリシー (トニーバリシー)	イタリア	1941	2000	58	心臓発作	心疾患
69	エディ・サリバン	アメリカ	1941	2000	59	心臓発作	心疾患
70	ゲーリー・オブライイト	アメリカ	1963	2000	36	心臓発作	心疾患
71	ジャンボ・鶴田	日本	1951	2000	49	肝臓がん	悪性新生物
72	福田雅一	日本	1972	2000	27	急性硬膜下出血	脳血管疾患
73	プロフェッサー・タナカ	アメリカ	1930	2000	70	心不全	心疾患
74	ボビー・ダンカン・ジュニア	アメリカ	1965	2000	35	心臓発作	心疾患
75	ヨコズナ	アメリカ	1966	2000	34	狭心症	心疾患
76	リック・デビッドソン	アメリカ	1950	2000	50	不明	不明
77	レオ・ノメリーニ	イタリア	1924	2000	76	心不全	心疾患
78	アブドーラ・タンバ	メキシコ	1950	2001	51	不明	不明
79	アレックス・ベレス	アメリカ	1929	2001	72	不明	不明
80	クリス・アダムス	イギリス	1955	2001	46	正当防衛での射殺	他殺
81	ジョニー・バレンタイン	アメリカ	1929	2001	71	心臓発作	心疾患
82	テリー・ゴディ	アメリカ	1961	2001	40	心不全	心疾患
83	ビジャノ1号	メキシコ	1950	2001	50	心臓発作	心疾患
84	マイク・デービス	アメリカ	1956	2001	45	心臓発作	心疾患
85	ミッチ・スノー	アメリカ	1967	2001	34	自殺	自殺
86	ラリー・スウィーニー	アメリカ	1982	2001	30	自殺	自殺
87	サンダー杉山	日本	1940	2002	62	心不全	心疾患
88	ジョージ・ゴードイエニコ	カナダ	1928	2002	74	黒色腫皮膚がん	悪性新生物
89	スウェード・ハンセン	アメリカ	1933	2002	69	心臓病	心疾患
90	デビーボーイ・スミス	イギリス	1962	2002	39	心臓発作	心疾患
91	ネルソン・ロイヤル	アメリカ	1935	2002	66	心臓発作	心疾患
92	肥後宗典 (本郷篤)	日本	1945	2002	57	不明	不明
93	ビッグ・レッド	アメリカ	1950	2002	52	不明	不明
94	ミスター・レスリング	アメリカ	1934	2002	68	心臓発作	心疾患
95	ルー・テーズ	アメリカ	1916	2002	86	心臓疾患	心疾患
96	ワフー・マクダニエル	アメリカ	1938	2002	63	糖尿病	糖尿病
97	カート・ヘニング	アメリカ	1958	2003	44	鎮痛剤の過剰摂取	不慮の事故
98	グレート・アントニオ	カナダ	1928	2003	75	不明	不明
99	ジョー・ロッシ	アメリカ	1952	2003	51	脳腫瘍からのがん	悪性新生物
100	スポット・ムードッグ	アメリカ	1952	2003	51	心臓発作	心疾患
101	ディック・ハットン	アメリカ	1923	2003	80	病院にて死去	不明
102	冬木弘道	日本	1960	2003	42	がん性腹膜炎 (後腹膜及び腹膜の続発性)	悪性新生物
103	フレッド・ブラッシー	アメリカ	1918	2003	85	心臓と腎臓の疾患	心疾患
104	ホーク・ウォリアー	アメリカ	1957	2003	46	心臓発作	心疾患
105	マイク・アンソニー	カナダ	1968	2003	35	不明	不明
106	ミツ・ヒライ	日本	1941	2003	60	心不全	心疾患
107	吉村道明	日本	1926	2003	76	呼吸不全	呼吸器疾患
108	レイ・メンドーサ	メキシコ	1929	2003	73	心臓発作	心疾患
109	エル・ゴリアス	メキシコ	1934	2004	69	心臓麻痺	心疾患
110	サムソン・クツワダ	日本	1947	2004	57	急性白血病	悪性新生物
111	サンボ浅子	日本	1963	2004	40	糖尿病	糖尿病
112	ドクトル・ワグナー	メキシコ	1941	2004	63	心臓発作	心疾患
113	ハーキュリーズ	アメリカ	1956	2004	47	心臓発作	心疾患
114	ビッグ・ボスマン	アメリカ	1963	2004	41	心臓発作	心疾患
115	アル・ヘイズ	イギリス	1928	2005	76	脳梗塞	脳血管疾患
116	エディ・ゲレロ	アメリカ	1967	2005	38	動脈硬化	その他の循環器系疾患
117	クラッシャー・リソワスキー	アメリカ	1926	2005	79	脳腫瘍	悪性新生物

瀧澤 透・成澤 良：プロレスラーの死因に関する一考察

No	氏名	国籍	生年	没年	享年	死因	死因分類
118	クリス・キャンディード	アメリカ	1972	2005	33	術後の血栓が原因	その他の循環器系疾患
119	セーラー・ホワイト	カナダ	1949	2005	56	交通事故により首を骨折	不慮の事故
120	橋本真也	日本	1965	2005	40	脳幹出血	脳血管疾患
121	ベッツ・ワトレ	アメリカ	1951	2005	54	心臓発作	心疾患
122	ミゲル・ベレス	プエルトリコ	1937	2005	68	心臓発作	心疾患
123	ワイルド・アンガス	イギリス	1934	2005	70	不明	不明
124	ウラカン・ラミレス	メキシコ	1932	2006	74	心筋梗塞	心疾患
125	大木金太郎	朝鮮・韓国	1929	2006	77	慢性心不全, 心臓麻痺	心疾患
126	スーパー・デストロイヤー	カナダ	1940	2006	66	白血病	悪性新生物
127	テンタ	カナダ	1963	2006	42	膀胱がん	悪性新生物
128	ブラック・キャット	メキシコ	1954	2006	51	心不全	心疾患
129	ブル・ラモス	アメリカ	1935	2006	71	肩の感染症	感染症
130	リッキー・ギブソン	アメリカ	1952	2006	54	心不全	心疾患
131	リッキー・ロメロ	アメリカ	1931	2006	75	糖尿病	糖尿病
132	ルーク・グラハム	アメリカ	1940	2006	66	心不全	心疾患
133	アーニー・ラッド	アメリカ	1938	2007	68	結腸がん	悪性新生物
134	アーノルド・スコーラン	アメリカ	1925	2007	82	不明	不明
135	カール・ゴッチ	ベルギー	1924	2007	82	大動脈瘤破裂	その他の循環器系疾患
136	キラ・トーア・カマタ	アメリカ	1937	2007	70	心臓発作	心疾患
137	クリス・ベノワ	カナダ	1967	2007	40	自殺（首つり）	自殺
138	ザ・グラジエーター（マイク・オーサム）	アメリカ	1965	2007	42	自殺（首つり）	自殺
139	ダニー・リンチ	イギリス	1938	2007	69	心臓発作	心疾患
140	デューイ・ロバートソン	カナダ	1939	2007	68	がん	悪性新生物
141	バッドニュースアレ	アメリカ	1943	2007	63	急性心不全	心疾患
142	ビガロ	アメリカ	1961	2007	45	薬物の過剰摂取（抗不安薬とコカイン）	不慮の事故
143	ブライアン・アダムス	アメリカ	1963	2007	44	薬物の過剰摂取	不慮の事故
144	S・D・ジョーンズ	アンティグア・バーブーダ	1945	2008	63	脳卒中	脳血管疾患
145	アルフォンソ・ダンテス	メキシコ	1943	2008	65	心臓麻痺	心疾患
146	キラ・コワルスキー	カナダ	1926	2008	81	心不全	心疾患
147	グレート草津	日本	1942	2008	66	多臓器不全	その他
148	ジョニー・ウィーバー	アメリカ	1935	2008	73	心臓麻痺	心疾患
149	ウマガ（ジャマル・エディ・ファトゥ）	アメリカ	1973	2009	36	心臓発作	心疾患
150	剛竜馬	日本	1956	2009	53	敗血症	感染症
151	ザ・ビースト	カナダ	1938	2009	71	直腸がん	悪性新生物
152	ジョン・トロス	カナダ	1930	2009	78	腎不全	腎不全
153	ステイプ・ウィリアムス	アメリカ	1960	2009	49	咽頭がん	悪性新生物
154	テスト（アンドリュー・テスト・マーチン）	カナダ	1975	2009	33	薬物過剰摂取	不慮の事故
155	バディ・ローズ	アメリカ	1952	2009	56	糖尿病	糖尿病
156	ビリー・レッド・ライオン	カナダ	1925	2009	84	脊髄がん	悪性新生物
157	三沢光晴	日本	1962	2009	46	試合中の事故	不慮の事故
158	ルー・アルバーノ	アメリカ	1933	2009	76	老衰	老衰
159	ワルドー・フォン・エリック	カナダ	1933	2009	75	心臓発作	心疾患
160	JC ペイリー	アメリカ	1983	2010	27	不明（自宅で死亡）	不明
161	アンジェロ・ボッフォ	アメリカ	1925	2010	85	心不全	心疾患
162	アントン・ヘーシンク	オランダ	1934	2010	76	不明	不明
163	エドワード・カーペンティア	ポーランド	1926	2010	84	心不全	心疾患
164	エル・ヒガンテ	アルゼンチン	1966	2010	44	不明	不明
165	ガイ・ミッチェル	カナダ	1941	2010	68	がん	悪性新生物
166	キング・イヤウケア	アメリカ	1936	2010	73	不明	不明
167	愚乱浪花	日本	1977	2010	33	心筋梗塞	心疾患
168	サンディ・スコット	カナダ	1935	2010	75	すい臓がん	悪性新生物
169	柴田勝久	日本	1943	2010	66	心筋梗塞	心疾患
170	ジョー樋口	日本	1929	2010	81	肺腺がん	悪性新生物
171	ジン・キンスキー	カナダ	1928	2010	81	がん	悪性新生物
172	スキップ・ヤング	アメリカ	1951	2010	59	不明	不明
173	トレント・アシッド	アメリカ	1980	2010	29	不明	不明
174	キンジ渋谷	アメリカ	1921	2010	88	老衰	老衰
175	クリスカニオン	アメリカ	1970	2010	40	自殺（抗うつ剤の過剰服薬）	自殺
176	ミスター・ヒト	日本	1942	2010	67	糖尿病	糖尿病

No	氏名	国籍	生年	没年	享年	死因	死因分類
177	山本小鉄	日本	1941	2010	68	低酸素性脳症	神経系の疾患
178	グリズリー・スミス	アメリカ	1932	2010	78	アルツハイマー病	神経系の疾患
179	ジャック・ブリスコ	アメリカ	1941	2010	68	肺気腫, 循環器系に問題	呼吸器疾患
180	ラ・フィエラ	メキシコ	1961	2010	49	殺人死	他殺
181	バロン・シクルナ	マルタ	1929	2010	80	がん	悪性新生物
182	星野勘太郎	日本	1943	2010	67	肺炎	肺炎
183	マイク・ショー	アメリカ	1957	2010	53	心臓発作	心疾患
184	ラッシャー木村	日本	1941	2010	68	腎不全による誤嚥性肺炎	肺炎
185	ランス・ケイド	アメリカ	1980	2010	30	心不全	心疾患
186	上田馬之助	日本	1940	2011	71	窒息死	不慮の事故
187	キラー・カール・コックス	アメリカ	1931	2011	80	心臓発作	心疾患
188	バイソン・スミス	アメリカ	1973	2011	38	心不全	心疾患
189	ランディ・サベージ	アメリカ	1952	2011	58	心臓発作をおこし交通事故	不慮の事故

注1 表は没年順で、かつ、アイウエオ順。

注2 「朝鮮・韓国」の表記については、3人のレスラーの生年が全て戦前・戦中であったため、このような表記とした。